

# 第11章

## 分詞

### 第1節 分詞の概要

#### 1. 分詞とは

「分詞」とは、動詞が変化した形の1つで、「動詞」の機能に「形容詞」か「副詞」の機能が加わり、「動詞+形容詞」や「動詞+副詞」のように2つの品詞の機能を持つようになったものです。

分詞が「形容詞」として機能する場合には、普通の形容詞と同じように「限定用法」と「叙述用法」の2つの用法にさらに分かれます。また、分詞が「副詞」として機能する場合は、普通の副詞と同じように「動詞」や「形容詞」や「副詞」などを修飾します。

(★「形容詞の用法(『限定用法』と『叙述用法』)」→P. 161 参照。)

(★「副詞の基本的な働き」→P. 189 参照。)

#### 2. 分詞の種類と形

分詞には「**現在分詞**」と「**過去分詞**」の2つがあります。「現在分詞」は「動詞の原形」の語尾に「-ing」がついた形です。一方、「過去分詞」は「動詞の原形」の語尾に「-ed」(または「-d)」がついた形、あるいは不規則に変化した形で、動詞によって異なります。

例1: walk「歩く」(原形) → walking (現在分詞) / walked (規則変化の過去分詞)

例2: eat「食べる」(原形) → eating (現在分詞) / eaten (不規則変化の過去分詞)

#### 3. 「名詞」を修飾する分詞の位置

分詞が「形容詞」として機能し、文中の「名詞」を修飾する際、分詞は「名詞の前」に置かれることもあれば、「名詞の後ろ」に置かれることもあります。普通の「形容詞の位置」のルールを基本にし、分詞の場合にはさらには以下のようなルールがあります。

(★「形容詞の位置」→P. 163 参照。)

##### (1) 分詞が「1語」で名詞を修飾する場合

(a) 基本的には、分詞が「1語」で名詞を修飾する場合は「名詞の前」に置かれる。

例: Be careful not to wake up that **sleeping dog**.

「あの眠っている犬を起こさないように気をつけなさい。」

## 第2節 現在分詞

### 1. 現在分詞の意味

#### (1) 「動作の進行中」の意の現在分詞

英語の世界のほとんどの動詞は、現在分詞になると「動作の進行中」の意を持ち、日本語では「～している」や「～しながら」などのように表されます。

この意の現在分詞は、「動詞＋形容詞」あるいは「動詞＋副詞」の働きのうち、「動詞」の働きを保持したまま、「動詞」として「目的語」や「補語」や「修飾部分」などを後ろに伴うことができます。

例1：run（走る）→ running（走っている／走りながら）

例2：read（読む）→ reading（読んでいる／読みながら）

#### (2) 「感情などへの作用（能動）」の意の現在分詞

「surprise（驚かせる）」や「tire（疲れさせる）」など、「～させる」の意を持つ動詞が現在分詞になると「感情などへの作用（能動）」の意を持ち、日本語では「～させるような」のように表されます。

（★『～させる』の意を持つ動詞 → P. 99 参照。）

この意の現在分詞は、「動詞＋副詞」として機能することはほとんどなく、さらに、「動詞＋形容詞」の働きのうち、「動詞」の機能（つまり、「目的語」や「補語」や「修飾部分」を後ろに伴うという機能）も失われ、ほぼ「形容詞」として「i語」で機能するのが一般的です。このため、多くの英和辞典でも、これらの現在分詞は「形容詞」として扱われており、「very（とても）」など「程度の高さ」を表す副詞に修飾されることもあります。

例1：interest（興味を持たせる）→ interesting（興味を持たせるような）

例2：bore（退屈にさせる）→ boring（退屈にさせるような）

### 2. 現在分詞の用法

#### (1) 現在分詞の用法1：「動作の進行中」の意の「形容詞」の限定用法

例1：A smiling lady spoke to me.

「微笑んでいる女性が私に話しかけてきた。」

（「動作の進行中」の意の「形容詞」として機能し、「限定用法」で名詞「lady」を修飾している。「i語」で名詞を修飾する場合の現在分詞は「名詞の前」から修飾するのが普通。）

（★「形容詞の『限定用法』」 → P. 161 参照。）

## 第3節 過去分詞

### 1. 過去分詞の意味

#### (1) 「動作後の状態」の意の過去分詞（「自動詞」が過去分詞になったもの）

「自動詞」として機能している動詞が過去分詞になると「**動作後の状態**」の意を持ち、日本語では「**～してしまった（後の）**」や「**～した**」のように表されます。

（★「他動詞と自動詞」→P.76 参照。）

例1：fall（落ちる）→fallen（落っこちてしまった）

例2：go（行く）→gone（行ってしまった後の＝いなくなっている）

#### (2) 「受動」の意の過去分詞（「他動詞」が過去分詞になったもの）

「他動詞」として機能している動詞が過去分詞になると「**受動**」の意を持ち、日本語では「**～されている**」や「**～された**」のように表されます。

（★「他動詞と自動詞」→P.76 参照。）

例1：write（書く）→written（書かれている／書かれた）

例2：steal（盗む）→stolen（盗まれている／盗まれた）

### 2. 過去分詞の用法

#### (1) 過去分詞の用法1：「動作後の状態」の意の「形容詞」の限定用法

例：The path was completely covered with **fallen** leaves.

「その小道は**落ちた**葉っぱによって完全に覆われていた。」

（「動作後の状態」の意の「形容詞」として機能し、「限定用法」で名詞「leaves」を修飾している。「動作後の状態」の意の過去分詞は「**1語**」で機能し、「**名詞の前**」から修飾するのが普通。）

（★「形容詞の『限定用法』」→P.161 参照。）

#### (2) 過去分詞の用法2：「動作後の状態」の意の「形容詞」の叙述用法

例：I am **finished** with my homework. 「私は私の宿題を終えている。」

（「動作後の状態」の意の「形容詞」として機能し、「叙述用法」で述語動詞（be 動詞）「am」の「主格補語」となっている。この過去分詞は「受動」の意ではないので、「be 動詞＋過去分詞」の形だが「**受動態**」とは解釈されない。また、完了形（have＋過去分詞）とは異なり、be 動詞を使うことで「**現在＝動作後の状態**」ということを表している。）

（★「形容詞の『叙述用法』」→P.162 参照。）

## 第4節 分詞構文

### 1. 分詞構文とは

#### (1) 分詞構文の概要

「**分詞構文**」とは、本来ならば「**接続詞＋主語＋述語動詞**」の3つで表現すべき内容を、「1つの現在分詞」あるいは「1つの過去分詞」で表現するような構文のことです。

述語動詞が「**能動的もしくは進行中**」の意ならば「**現在分詞**」に置き換えられ、「**受動もしくは動作後の状態**」の意ならば「**過去分詞**」に置き換えられます。

例：Since I was alone, I had to do it by myself.

→ **Being** alone, I had to do it by myself. <分詞構文>

「一人だったので、私はそれを自分でやらなくてはならなかった。」

この例文のように分詞構文では、「接続詞 (Since)」、「主語 (I)」、「述語動詞 (was)」の3役が、「Being」という「分詞1語」だけで表現されます。分詞構文が使われた文は、分詞の中に込められている「接続詞」と「主語」が何であるかを文の受信者(聞き手・読み手)に考えさせることになります。「主語」は通常は「主節の主語」と同じなのですが、判別がつかますが、省略されている「接続詞」については、文脈などから文の受信者が想像しなくてはなりません。

分詞構文では、分詞1語だけで「接続詞＋主語＋述語動詞」の3つが表されます。このため、文字数に制限のある新聞や雑誌、そして小説やビジネス文書などの文語的表現では、分詞構文が頻繁に使われます。また、分詞構文を使えば、文中で同じ主語の繰り返しを避けることができるため、文を読むリズムが良くなるなどの効果を期待することもできます。その反面、「接続詞」や「主語」が何であるかを文の受信者に考えさせてしまうため、口頭の表現では分詞構文は極力避けられる傾向にあります。

また、「分詞構文」と「接続詞＋主語＋述語動詞」の表現は、全てが同等の意味として置き換えることができるわけではありません。文によっては「分詞構文」から「接続詞＋主語＋述語動詞」へ(あるいはその逆へ)置き換えてしまうと、意味が微妙に異なったり、文として不自然となる場合もあります。

特に、英文を書くことに十分に慣れていない英語学習者は、「接続詞＋主語＋述語動詞」の表現をむやみに「分詞構文」へと置き換えるべきではありません。分詞構文は「英文を作る」という目的で学習するというよりも、「英文を理解する」という目的で学習すべきである、と考えておくと良いでしょう。